

1. 調査目的等

小学校2年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

- NRT学力検査において、標準偏差値50を超える学級8割(15学級)以上
※特別支援学級を除く
- NRT学力検査において、学校平均値50以上

3. 指標にむけての取組

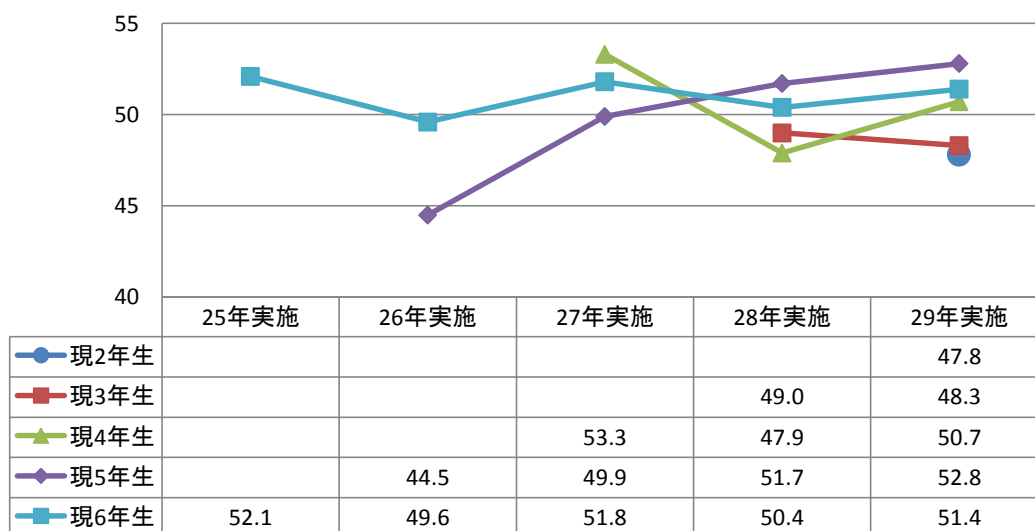
- 繰り返し指導の計画的な実施(診断テスト対策指導等を含む)
- 形成的評価を重視した指導と評価の一体化
- 「見通し」「振り返り」の設定と「かく」「話し合う」活動の充実
- 家庭学習と朝の活動を関連付けた計画的な指導
- 週末課題の確実な提示

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	46.7	46.8	52.4	50.7	50.2
嘉麻市(B)	49.8	50.0	50.8	50.7	51.5
(A)－(B)	-3.1	-3.2	1.6	0.0	-1.3
標準偏差値との差 (A)－(50)	-3.3	-3.2	2.4	0.7	0.2

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 標準偏差値50を超えた学級3割(6学級)。学年・学級によって学力差がある。
- 算数科において、習熟度別少人数授業を行ったことにより、4年生以上の学年においては平均値50を超えることができた。このことから、形成的評価を重視した指導は有効であった。
- 複数指導の最適化を図った上で朝の活動で家庭学習を中心とした習熟指導を行ったことは、基礎的な学習内容の定着を図るという点で有効であった。
- ◆ 家庭学習の状況
 - ・家庭学習時間(10×学年+10)分以上の確保については、達成できている学年とできていない学年がある。
 - ・内容については、学習内容を定着させるために、過去に学習したものと現在学習しているものを関連付けた課題プリントを学年で作成している。しかし、自学については、学級・学年によって取組の仕方が異なっている。
 - ・週末課題については、低学年は月～木と同程度、中・高学年は月～木の2倍の量を課題としている。特に6年生では、理科・社会も併せて課題を出している。

6. 各学校における今後の取組

【継続】

- 形成的評価を重視した指導と評価の一体化
算数科における習熟度別少人数授業の計画的な実施と複数指導体制を構築する。
- 家庭学習と朝の活動を関連付けた計画的な指導
解き方を解説し児童に書き直しの時間を確保する。また、教材集等を活用して発展問題に取り組ませる。

【充実】

- 「かく活動」「話し合う活動」の位置付け(国語科を中心に他教科へ)
 - ・共通点、相違点などの視点を明確にした上で、「かく活動」と1単位時間に1回以上位置付ける。
 - ・考えを共有したり付加修正するために、1単位時間に1回以上、10分程度の「話し合う活動」を位置付ける。

【修正】

- 質と量の系統性をもたせた家庭学習の実施
学習内容の習熟・定着を図るために、自学と週末課題を含めた家庭学習の質と量の系統性をもたせた上で、「10分×学年+10分」の徹底を図る。
- ◆ 家庭学習の習慣化に向けた取組の具体策
 - ・家庭学習の質と量を確保するために、学年の系統性をもたせた稲築西小学校家庭学習系統表を作成する。
 - ・(10×学年+10)分の家庭学習時間が確保できたかを検証するために生活アンケートを実施し、80%以上の児童が確保できたと答えることができるように指導を徹底する。
 - ・通常の課題について、1年生については多層指導モデルMIMの内容を、高学年については中学校進学を見据えて自学の内容を充実させるように、それぞれ取り組む。
 - ・週末課題については、学年の発達段階を踏まえ、高学年で平日×2倍の学習量をこなすことができるように段階的に設定する。また、3年生以上の学年については、理科・社会を併せ、自己選択できる課題を提示する。
 - ・自学については、「取り組むことが当たり前」になるように、低学年から段階的に取り組ませる。
 - ・通常及び週末課題の提出率を90%以上にする。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。また、学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の個別化を推進する。